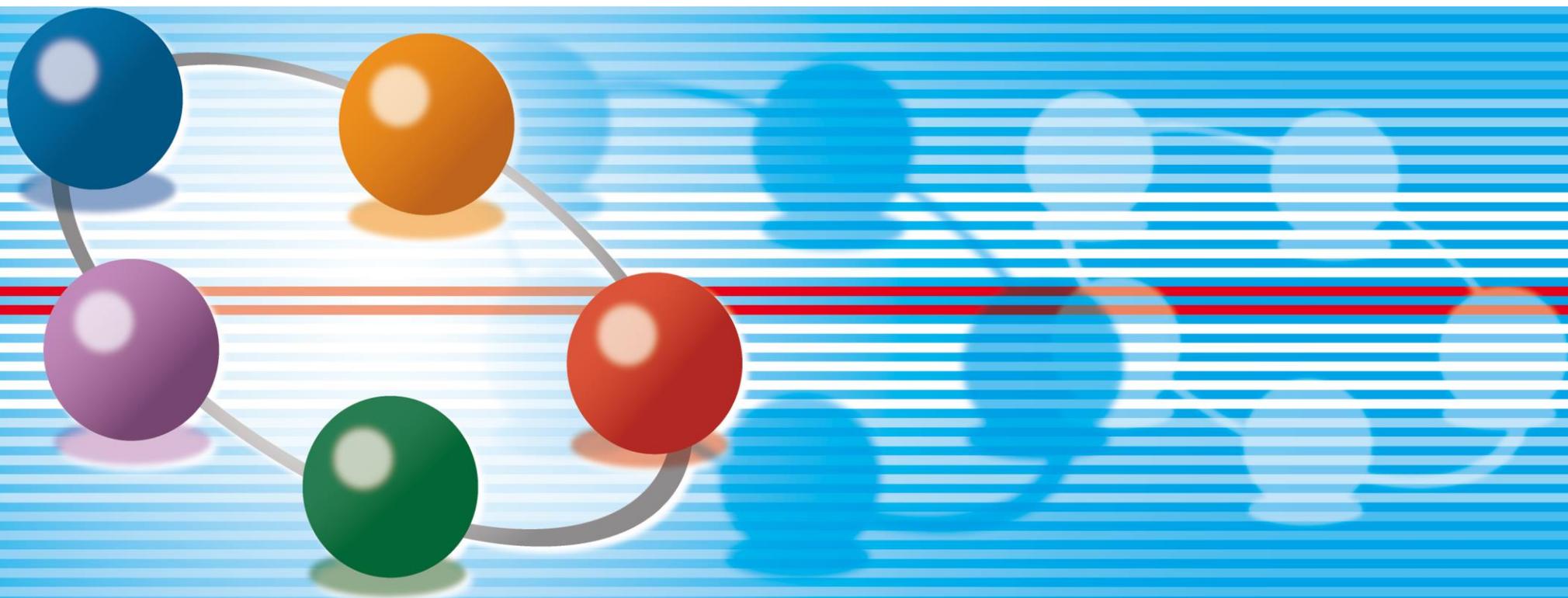




株式会社カワタ 2016年3月期決算説明会資料

2016年6月8日

(証券コード 6292 東証第二部)



目次

- I . 会社概要
- II . 決算実績・業績予想
- III . 経営戦略
- Appendix



I . 会社概要



1. 会社概要

会社名	株式会社 カワタ	Kawata MFG. Co.,Ltd.
本社	大阪市西区阿波座1丁目15番15号(第一協業ビル)	
創業	1935年9月10日	
設立	1951年7月13日	
事業内容	プラスチック成形機周辺装置等のプラスチック製造機器の製造、販売及びこれに関連するシステムエンジニアリングその他のサービス	
代表者	白井 英徳	
売上高	17,534百万円 (2016年3月期、連結)	
経常利益	707百万円 (—— " ——)	
(親会社)当期純利益	787百万円 (—— " ——)	
資本金	977百万円 (—— " ——)	
従業員数	788名 (—— " ——)	
子会社数	16社(国内5社、海外11社)(—— " ——)	

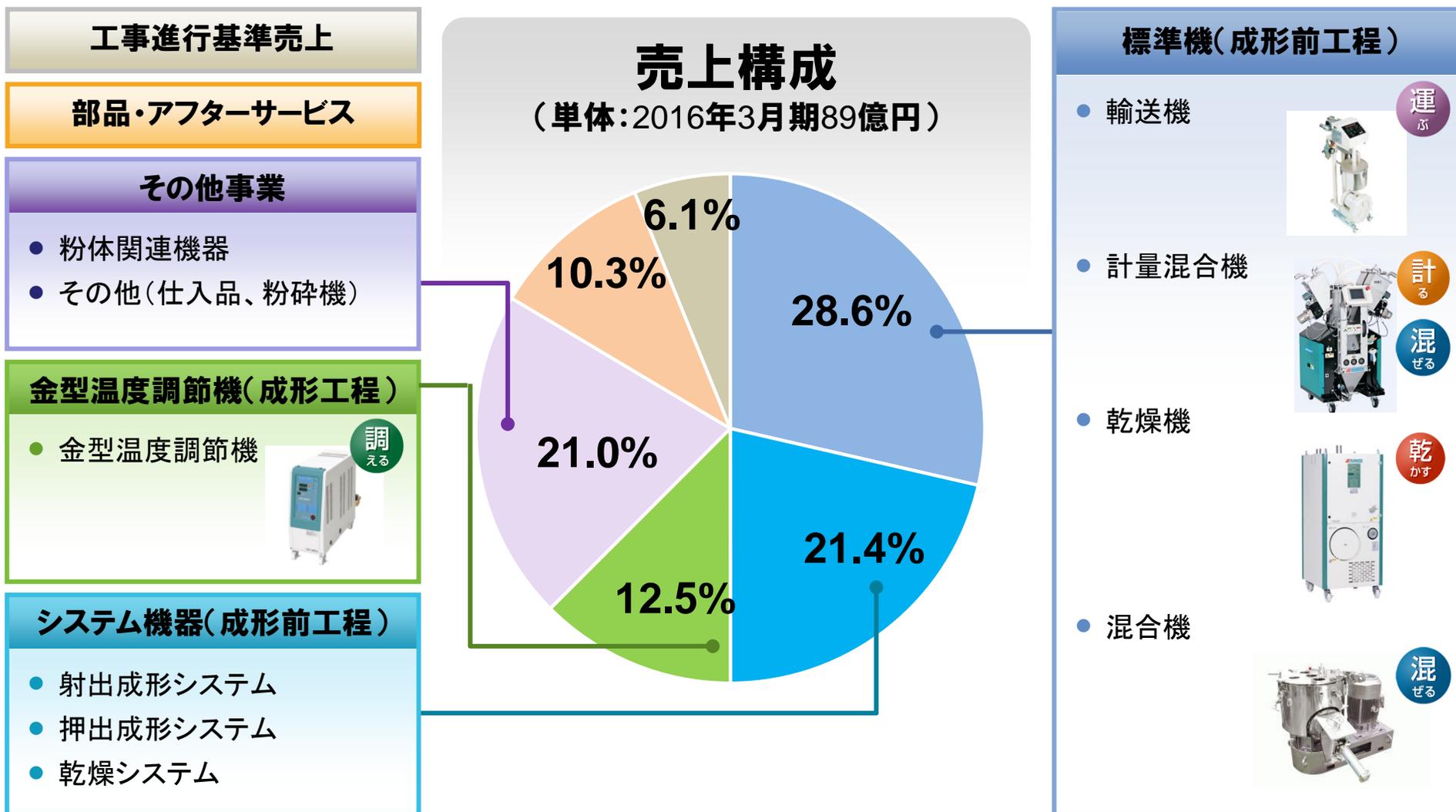
2. 事業内容:プラスチックを主とする製品製造工程の概要

- 事業内容:プラスチック成形機周辺装置等のプラスチック製造機器の製造、販売及びこれに関連するシステムエンジニアリングその他のサービス
- 5つのコア技術(運ぶ・乾かす・計る・混ぜる・調える)をもとにプラスチック製品製造における成形加工工程(主に原料供給工程)をシステムにて提供



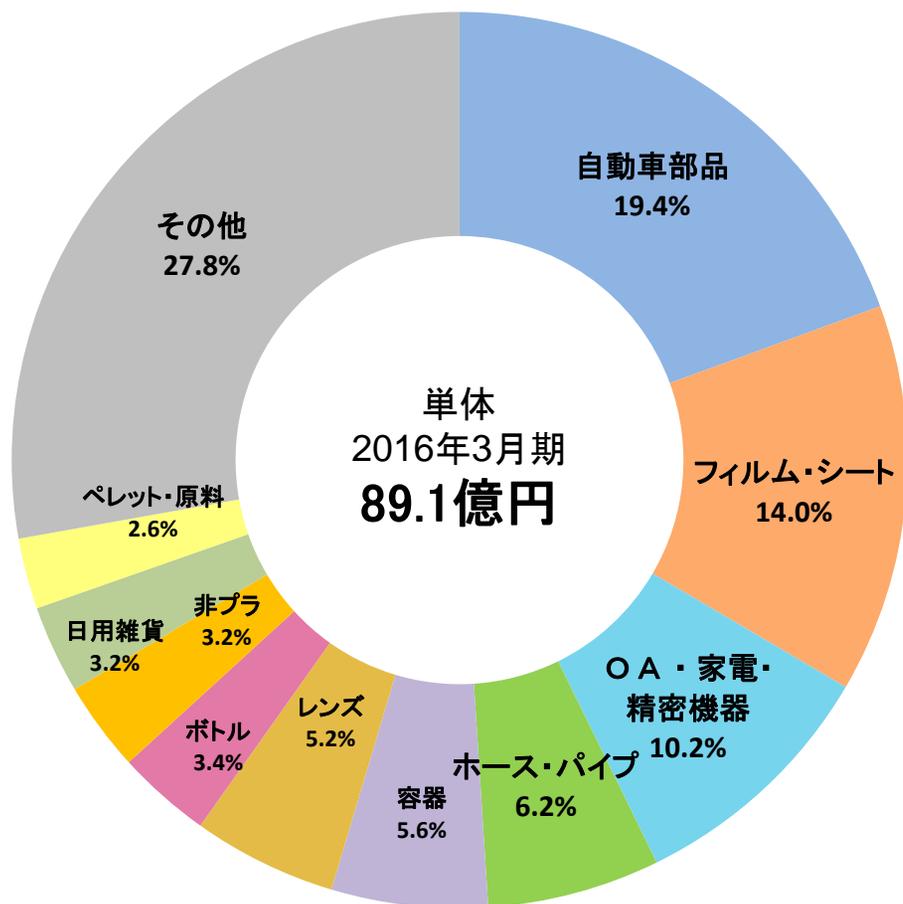
3. 事業構成(単体)

- プラスチック成形合理化機器関連事業、輸送・計量・乾燥・混合がコア技術
- コア技術を有機的に組合せた独自のハンドリングによるシステム装置が主力



4.主な販売業界

販売先別売上構成



代表的な販売業界



自動車部品

- バンパー
- インパネ
- ガソリントank



フィルム・シート

- 食品シート
- 高性能シート



OA・家電

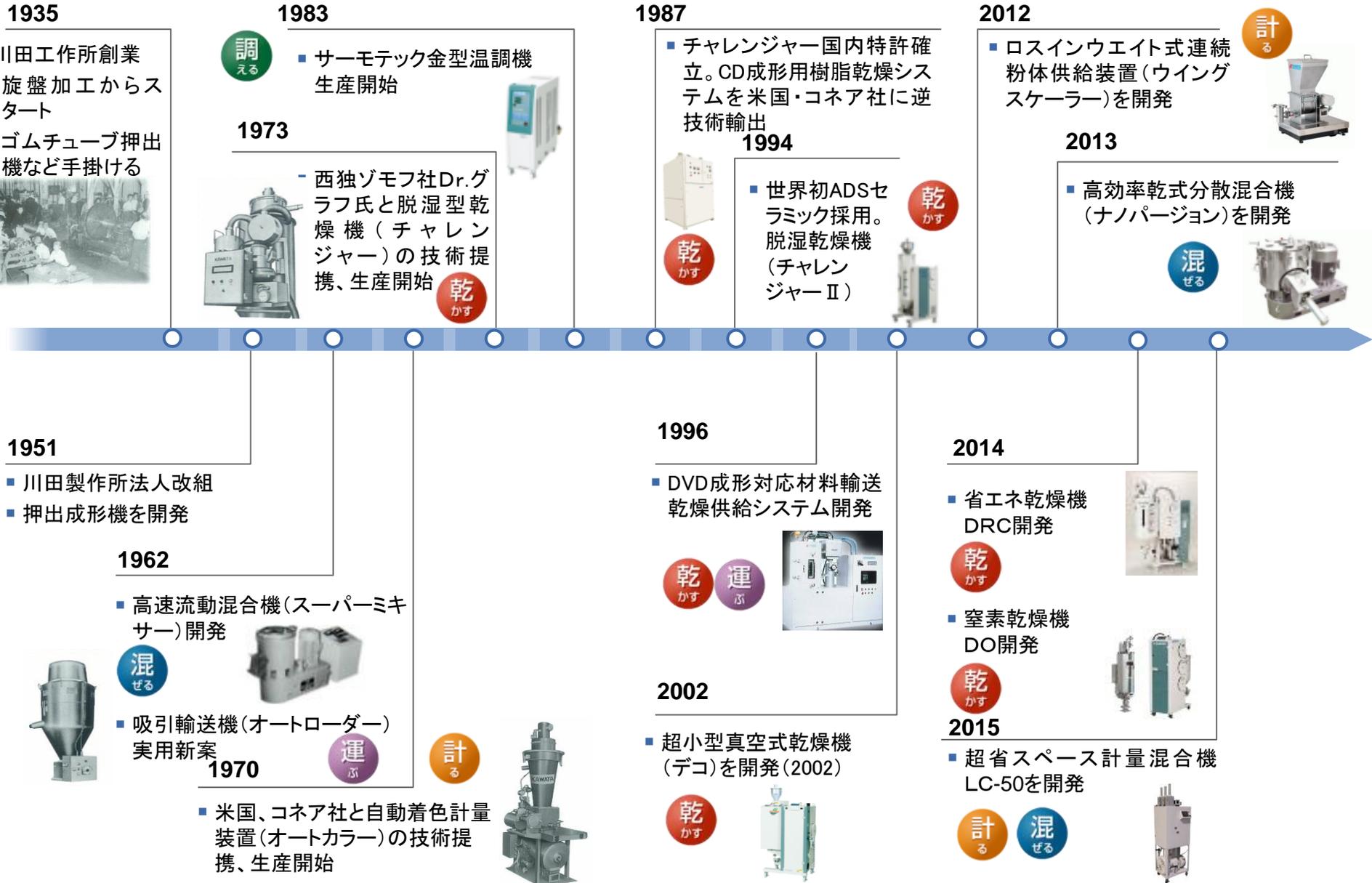
- スマホ関連
- 高級白物家電
- 電子部品
(コネクタ、センサー)



レンズ関連

- スマホ用レンズ
- 車載用カメラ等のレンズ

5.沿革(製品開発の歴史)





Ⅱ. 決算実績・業績予想



1.決算概要総括

市場環境

国内

- 自動車、電子部品関連を中心に持ち直しの動きがみられていたが、年明け以降は円高・株安となり、足元は弱含み

海外

- 先進国は緩やかな回復傾向ながらも、米国の利上げ、欧州の債務問題等による下振れ懸念あり
- 新興国の経済成長は、従来の拡大テンポから一段と緩やかに。また、紛争等の地政学的なリスクも存在

売上面

連結売上高
17,534百万円
(前年比+1.7%)

国内

- 前年度後半からの国内景気回復に伴う受注増と、東アジア向けの大型輸出案件が寄与

海外

- 2015年半ば以降、中国の設備投資意欲が減退。好調であった台湾の需要にも一服感
- 東南アジアは、総じて緩やかな回復傾向ではあるが、インドネシア、タイは弱含み

利益面(費用面)

- 営業利益は7.3億円、経常利益は7.0億円と前期比ほぼ横ばい。(親会社)当期純利益は特別要因により7.8億円と大幅増益

営業利益
739百万円
(前年比▲2.1%)

- 売上総利益率はほぼ横ばい(31.3→31.0%)ながら増収効果により売上総利益は前年同期比0.3億円増加
- 中国、東南アジアにおける人件費等諸経費の増加、日本国内における給与・賞与の増加等により、販売費および一般管理費は前年同期比0.5億円増加

(親会社)当期純利益
787百万円
(前年比+84.3%)

- 特別損益において、中国子会社における工場移転関連で差引4.7億円の収益を計上

2. 2016年3月期決算実績

①損益計算書(P/L)(連結)

(単位:百万円、%)

	実績						コメント
	2015年3月期			2016年3月期			
	金額	構成比	前期比 増減率	金額	構成比	前期比 増減率	
売上高	17,242	100.0	9.8	17,534	100.0	1.7	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本は前年度後半からの受注増が寄与 ■ 中国・台湾は年度後半に減速、東南アジア弱含み
売上総利益	5,403	31.3	10.8	5,437	31.0	0.6	<ul style="list-style-type: none"> ■ 売上総利益率は31.3%→31.0%と微減
販売費及び一般管理費	4,647	27.0	8.2	4,698	26.8	1.1	<ul style="list-style-type: none"> ■ 中国、東南アジアにおける人件費等諸経費の増加 ■ 日本における給与・賞与の増加
営業利益	755	4.4	29.8	739	4.2	▲2.1	
経常利益	714	4.1	35.7	707	4.0	▲1.0	
(親会社)当期純利益	427	2.5	31.6	787	4.5	84.3	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2016/3期:中国子会社における工場移転関連で差引474の特別収益を計上
減価償却費	174	—	2.3	216	—	23.5	
設備投資額	1,115	—	334.0	1,055	—	▲5.4	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2016/3期:中国子会社における新工場建設関連929

2. 2016年3月期決算実績

②セグメント別売上高・営業利益(連結)

(単位:百万円、%)

(売上高)	実績						コメント
	2015年3月期			2016年3月期			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
日本	10,547	55.0	4.1	11,451	59.4	8.6	■ 前年度後半からの受注増と海外向大型案件が寄与
東アジア	6,232	32.5	24.6	5,511	28.6	▲11.6	■ 中国は年度半ば以降、設備投資に慎重な動き ■ 前年度より好調であった台湾の需要も一服感
東南アジア	1,966	10.3	16.7	1,978	10.3	0.7	■ 穏やかな回復基調ではあるが、一部で弱い動き
北米	419	2.2	19.3	335	1.7	▲20.0	■ メキシコの需要を確実に取り込み今後の拡大を図る

(営業利益)	実績						コメント
	2015年3月期			2016年3月期			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
日本	402	54.0	109.1	739	101.2	84.0	■ 増収効果に加えて売上総利益率の改善(25.7%→27.1%)により大幅増益
東アジア	423	56.8	▲0.5	56	7.8	▲86.5	■ 中国における売上減少と人件費等諸経費の増加により大幅減益
東南アジア	▲89	▲12.1	—	▲65	▲9.0	—	■ 在庫の評価減等により営業赤字ではあるが、生産体制の整備等改善は進行
北米	9	1.3	30.5	▲0	▲0.0	—	

(注)構成比は連結調整額を除いて算出

2. 2016年3月期決算実績

③営業利益増減要因(連結)

- 売上増により売上総利益は増加するも、販売管理費の増加により、営業利益は16百万円減少



2. 2016年3月期決算実績

④貸借対照表(B/S)(連結)

(単位:百万円)

	2015年3月期	2016年3月期	増減額	コメント
流動資産	12,477	12,707	229	
現金及び預金	3,990	3,962	▲27	
受取手形及び売掛金	5,881	6,186	304	■ 日本における売上高増加に伴うもの
たな卸資産	2,280	2,204	▲76	
固定資産	5,123	5,717	593	
有形固定資産	3,943	4,632	689	■ 建物及び構築物 1,244→2,692 ■ 機械及び装置 127→ 416 ■ 建設仮勘定 1,108→ —
無形固定資産	507	424	▲83	■ 主に中国における旧工場の土地使用権売却
投資その他の資産	672	659	▲12	
資産合計	17,601	18,424	823	
	2015年3月期	2016年3月期	増減額	コメント
負債合計	10,255	10,623	368	■ 未払費用、未払金、未払法人税等の増
(有利子負債残高)	5,163	5,246	83	■ 長期借入金が増
純資産合計	7,345	7,800	455	■ (親会社)当期純利益 787 ■ 為替換算調整勘定 737→547
負債純資産合計	17,601	18,424	823	

2. 2016年3月期決算実績

⑤キャッシュフロー計算書(連結)

(単位:百万円)

	2015年3月期	2016年3月期	増減額	コメント
営業活動によるキャッシュ・フロー	370	743	372	<ul style="list-style-type: none"> ■ 売上債権の増減額(▲は増加) ▲192→▲549 ■ たな卸資産の増減額(▲は増加) ▲234→▲22 ■ 仕入債務の増減額(▲は減少) ▲257→30 ■ 補償金の受取(中国工場移転関連) —→357
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲1,102	▲688	413	<ul style="list-style-type: none"> ■ 有形固定資産の取得による支出 ▲1,115→▲1,055 ■ 有形固定資産の売却による収入 5→293 ■ 無形固定資産の売却による収入 —→146
財務活動によるキャッシュ・フロー	440	▲5	▲446	<ul style="list-style-type: none"> ■ 短期借入金の増減額(▲は減少) 70→▲80 ■ 長期借入金の増減額(▲は減少) 513→254 ■ 社債の増減額(▲は減少) ▲60→▲63
現金及び現金同等物に係る 換算差額	212	▲75	▲287	
現金及び現金同等物の増減額	▲79	▲27	51	
現金及び現金同等物の期首残高	4,065	3,986	▲79	
現金及び現金同等物の期末残高	3,986	3,958	▲27	

3. 2017年3月期業績予想

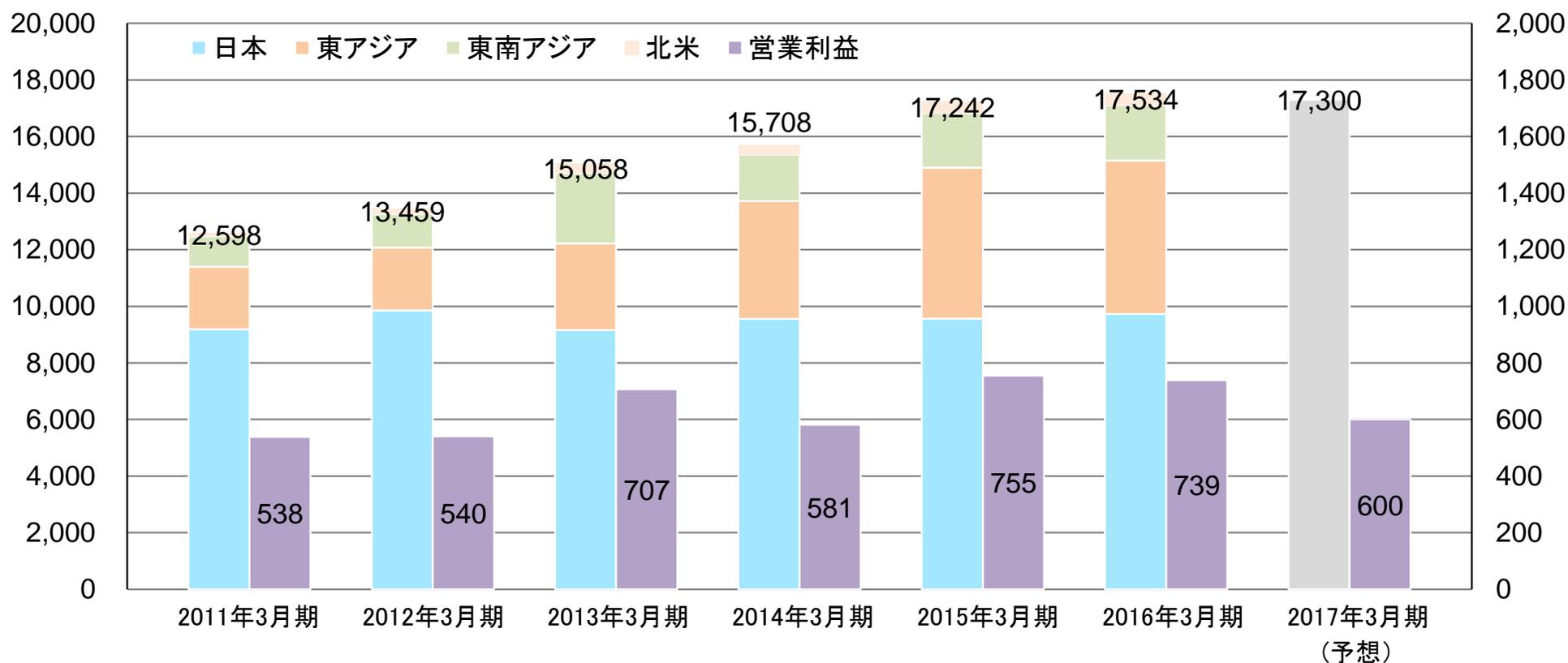
①連結業績推移

連結売上高
17,300百万円
(前期比▲1.3%)

- 日本、東アジアは景気減速の影響を受けるが、自動車、電子部品関連は中長期的には今後も成長が期待できる
- 東南アジアでの生産品目拡大、メキシコ向けの案件増を図る

営業利益
600百万円
(前期比▲18.8%)

- 日本において、足元の受注残減少に伴い減益を見込む
- 東アジア、東南アジアにおいて、材料費等の原価低減と諸経費の抑制に取り組み、収益力の回復を図る



3. 2017年3月期業績予想

②損益計算書(P/L)予想(連結)

(単位:百万円、%)

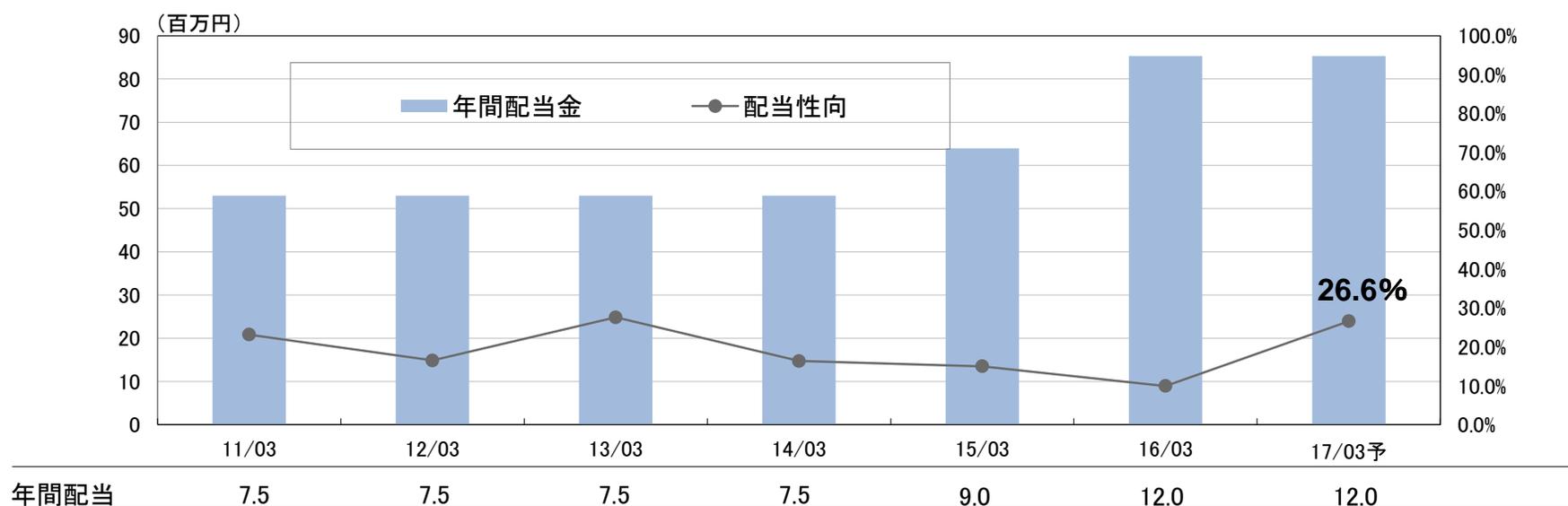
	2016/3期			2017/3期(通期)(予想)						コメント
	金額	構成比	増減率	2017/3期2Q(予想)			金額	構成比	増減率	
				金額	構成比	増減率				
売上高	17,534	100.0	1.7	8,500	100.0	▲6.5	17,300	100.0	▲1.3	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本、東アジアは、景気減速の影響 ■ 東南アジア生産品目拡大、メキシコ向け案件増
売上総利益	5,437	31.0	0.6	2,623	30.9	▲11.7	5,337	30.8	▲1.9	<ul style="list-style-type: none"> ■ 売上減少に伴う製造固定費率増加を材料費等の変動費削減でカバー
販売費及び一般管理費	4,698	26.8	1.1	2,369	27.9	0.1	4,737	27.4	0.8	<ul style="list-style-type: none"> ■ 戦略、政策的なものを除き人件費、経費は極力抑制
営業利益	739	4.2	▲2.1	255	3.0	▲57.7	600	3.5	▲18.8	
経常利益	707	4.0	▲1.0	210	2.5	▲65.2	510	2.9	▲27.9	
(親会社)当期純利益	787	4.5	84.3	130	1.5	▲84.3	320	1.8	▲59.4	
減価償却費	216	—	23.5	130	—	44.0	260	—	20.4	<ul style="list-style-type: none"> ■ 主に中国新工場建設に伴う増
設備投資額	1,055	—	▲5.4	150	—	▲87.2	300	—	▲71.6	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本、東南アジアにおける工場設備投資を見込む

4.配当政策

配当性向推移

配当方針

当社は従来の安定的な配当維持に加え、業績に連動した株主の皆様への還元を経営の重要政策のひとつとして位置づけております。また、中長期的には安定した事業成長を図り株主価値を持続的に向上させるため、業績の進展状況等を勘案し、新規事業開発や戦略投資等に内部留保資金を投下してまいります



株主優待

2015年12月18日開催の取締役会において、株主優待制度の追加導入を決議いたしました。

基準日	保有株式数	優待内容
3月31日	100株以上	QUOカード 500円相当分(追加導入)
	500株以上1,000株未満	1,000円相当の優待品、社会貢献活動団体への寄付
	1,000株以上	1,500円相当の優待品、社会貢献活動団体への寄付
9月30日	100株以上	QUOカード 500円相当分(追加導入)



Ⅲ. 経営戦略



1.経営理念

3ゲン主義を基本姿勢とし、従業員満足度と株主価値を向上しながら、
グループの総合力を持って業界NO.1メーカーを目指します

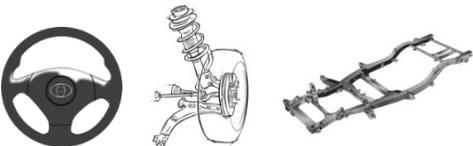


2. 事業環境

(1) 世界のプラスチック成形における業界環境

- 好調な自動車製造業界において、樹脂製部品が増加
- 部品の高品質化や生産コスト低減が求められる中で、周辺機器においては、高機能、省エネ、低コストが要求される
- 東アジアIT関連設備投資需要は依然旺盛、成形不良防止のため高度な窒素乾燥技術が要求される
- 新興国における生活水準の向上が進展し、ペットボトルへの転換は継続

今後の成長が期待されるプラスチック成形分野

	日本	東アジア	東南アジア	北米
①自動車関連 	<ul style="list-style-type: none"> ● 老朽化設備の更新需要が堅調 ● センサー類増加・軽量化電子部品の搭載率が高い車種の人気継続により、プラスチック部品の需要増加 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中国での自動車関連についても減速は懸念されるものの、自動車市場は依然好調で、プラスチック製造機器への受注は堅調に推移するも、海外メーカーとの競争は激化 	<ul style="list-style-type: none"> ● タイは、自動車販売不振により設備投資は停滞 ● インドネシアは経済成長鈍化、ルピア安、人件費増によるコスト高により設備投資は低調 	<ul style="list-style-type: none"> ● 北米における自動車関連需要は引き続き好調、射出成形機においては大型機の受注が好調となるなど、設備投資意欲が旺盛
②OA・IT機器関連 	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本では海外への生産シフトの動きが円安で逆流、中国スマホ関連部品の国内製造に伴う設備投資が増加 ● コピー機など国内向け商品において老朽化対応による更新需要 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中国経済減速とスマホ関連メーカー乱立による過剰感による伸び悩み ● 韓国・台湾においては空洞化進展、需要横ばい 	<ul style="list-style-type: none"> ● タイ：洪水対応の設備更新による需要先食いなどのより低迷 ● ベトナム：韓国メーカーによる設備投資盛ん ● フィリピン：政治の安定に伴い日本企業の進出が活況 	
③ペットボトル・容器等 	<ul style="list-style-type: none"> ● 個食化の進展、インバウンド効果もあり、国内コンビニエンスストア、中食などにおける食品容器の需要が拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ● 原油価格の下落が容器と最終製品の価格低下につながり、ガラス容器からプラスチックボトルへの切り替え需要が進展 		<ul style="list-style-type: none"> ● 原油安による国内景気好調、医療・容器分野での需要が堅調に推移

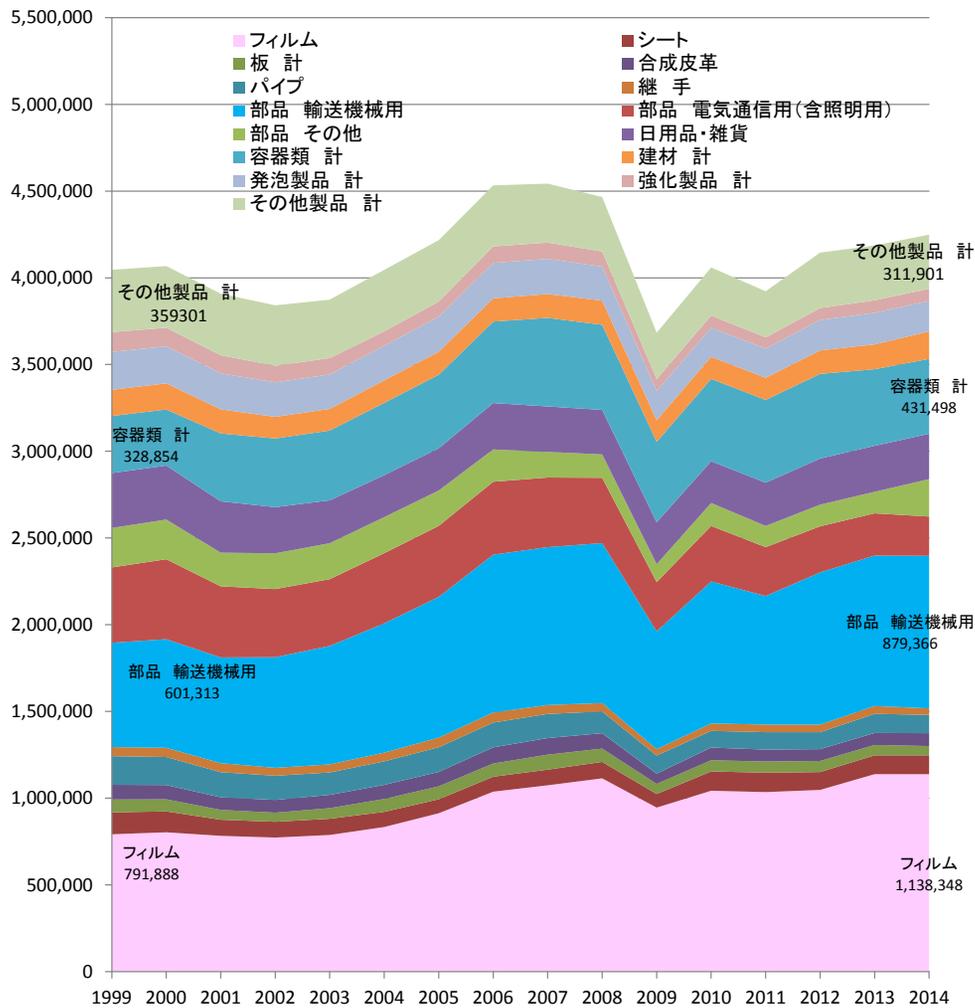
2. 事業環境

(2) プラスチック製品・成形機の生産動向

- 国内プラスチック製品出荷は全体は横ばい、自動車部品・フィルム・レンズを中心に出荷金額は長期拡大傾向。射出成形機、押出・ブロー成形機ともに2015年以降も成長を見込む

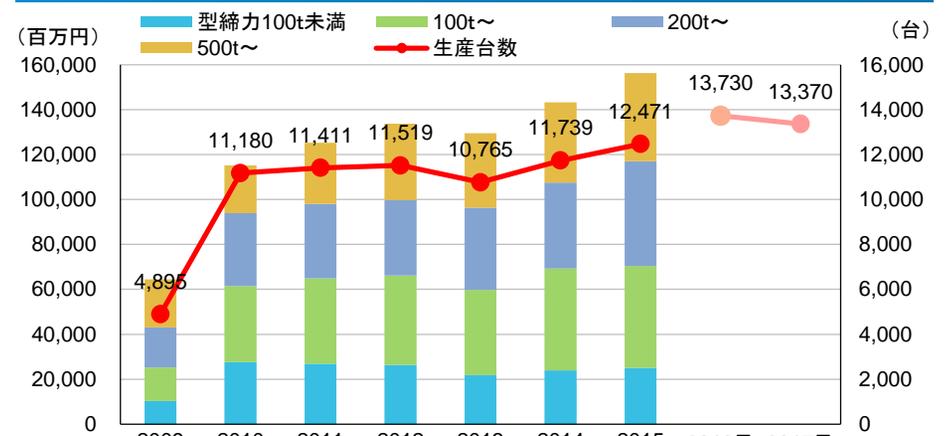
1999年～2014年 国内プラスチック製品販売実績

(百万円)



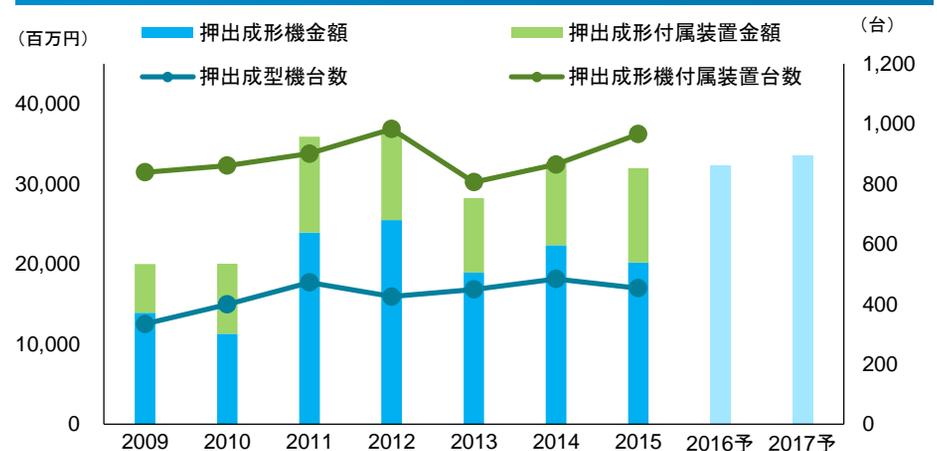
出所：日本プラスチック工業連盟資料

射出成形機生産金額・台数推移



出所：経済産業省 機械統計・生産動態統計(実績) 日本産業機械工業会(予測)
注)2015年迄実績については生産台数実績、2016年以降は出荷台数予測

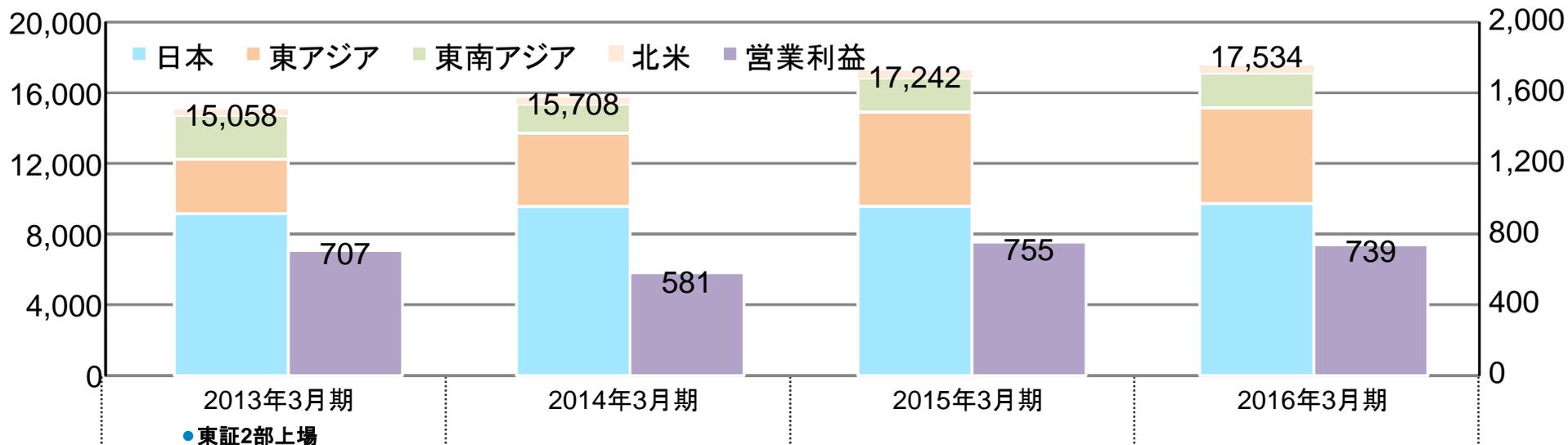
押出成形機生産金額・台数推移



出所：経済産業省 機械統計・生産動態統計(実績) 日本産業機械工業会(予測)
注)2015年迄実績については生産金額実績、2016年以降は需要金額予測

3. 2016年3月期までの中期経営計画振り返り

- 環境の変化に対応し収益力向上施策を展開、自動車関連・IT関連の需要に対応し、グローバル生産・販売体制の拡充、新規販売分野への展開など持続的な利益成長に向けた基盤構築を実現



製品開発

- 高効率乾式分散混合機「ナノパージョン」本格発売
- 脱湿乾燥機(DFAシリーズ)自動節電機能追加

- 新型脱湿乾燥機DRC-30Z開発、販売開始

- 新型脱湿乾燥機DRC-60Z開発、販売開始
- 小型超高速混合機HEPD-2(ナノパージョン)開発
- 窒素乾燥機(DOシリーズ)ラインナップ拡大

- 粉体計量供給機WS-II(ウイングスケーラーII)開発
- 新型計量混合機LC-50開発、販売開始
- 新型窒素乾燥機開発

生産体制

- 新大阪工場竣工

- レイケンタイランド設立
- 中国・上海新工場着工

- 窒素乾燥機(DOシリーズ)生産拡大

- 中国上海新工場竣工
- カワタテクノサービスの業務をカワタへ移管

- PTカワタインドネシア生産機種拡大

4. 中期経営計画概要

- 中期経営戦略に対応、グループ各社の自主性を高め市場対応力を高めるとともに、グループでの協働を進め、企業価値・株主価値の向上を図る

中期経営戦略

1 新規市場への販売と既存市場でのシェアUPによる売上拡大

- 北中米市場への販売拡大
- 東南アジアでの生産拡大とQ.C.D向上
- 中国での新エネルギー車の拡大等、政府の国策により活性化する市場への対応
- サービス体制の強化によるCSの向上

2 マーケットニーズへの対応

- 樹脂、成形機メーカーとの交流による新素材への対応
- 進化する自動車用部品及びIT関連機器市場への対応
- 環境負荷低減、省エネ対応製品の開発
- 顧客の生産性向上に貢献する製品の開発と販売活動
- 業界、地域で異なるニーズに対応し、特徴を生かした製品の開発と販売

3 経営基盤の強化

- 人材のレベルUPによる企業力の向上
- 収益力向上によりREO8%以上の確保
- コンプライアンス意識の徹底による健全な企業活動
- 社会変化に対応したコーポレートガバナンスの実現

中期経営計画概要

1 所在地セグメント戦略

- 日本・東アジア・東南アジア・北米の4拠点においてターゲット業界・重点販売製品・重点施策を策定

2 生産戦略

- 品質・信頼性向上
- 在庫管理強化
- コストダウン活動徹底

3 製品開発戦略

- 顧客満足を獲得できる新製品開発
- 市場ニーズに対応した製品開発

4 販売戦略

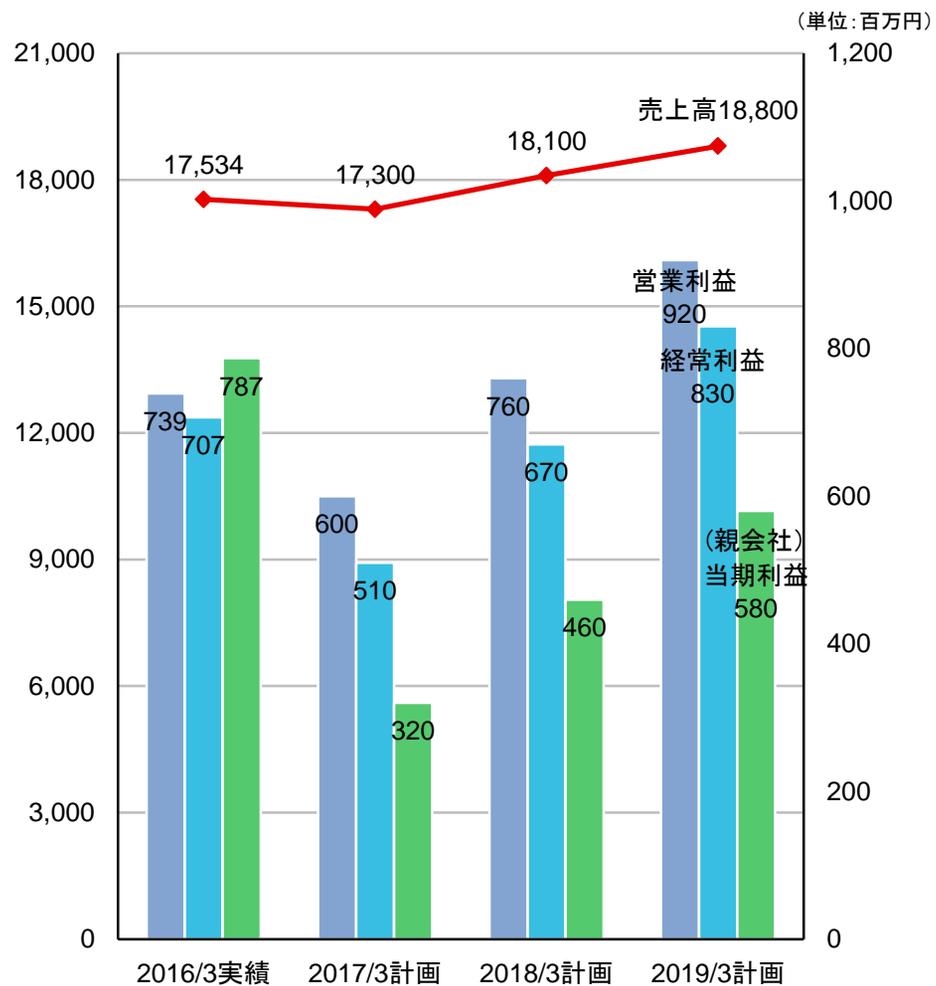
- 新製品投入による受注拡大
- 新規市場マーケティング／市場開拓展開
- 市場およびユーザニーズへの対応
- ターゲットの絞込み

5 組織・人事戦略

- 組織構造の構築／モチベーションアップ／CSR経営強化

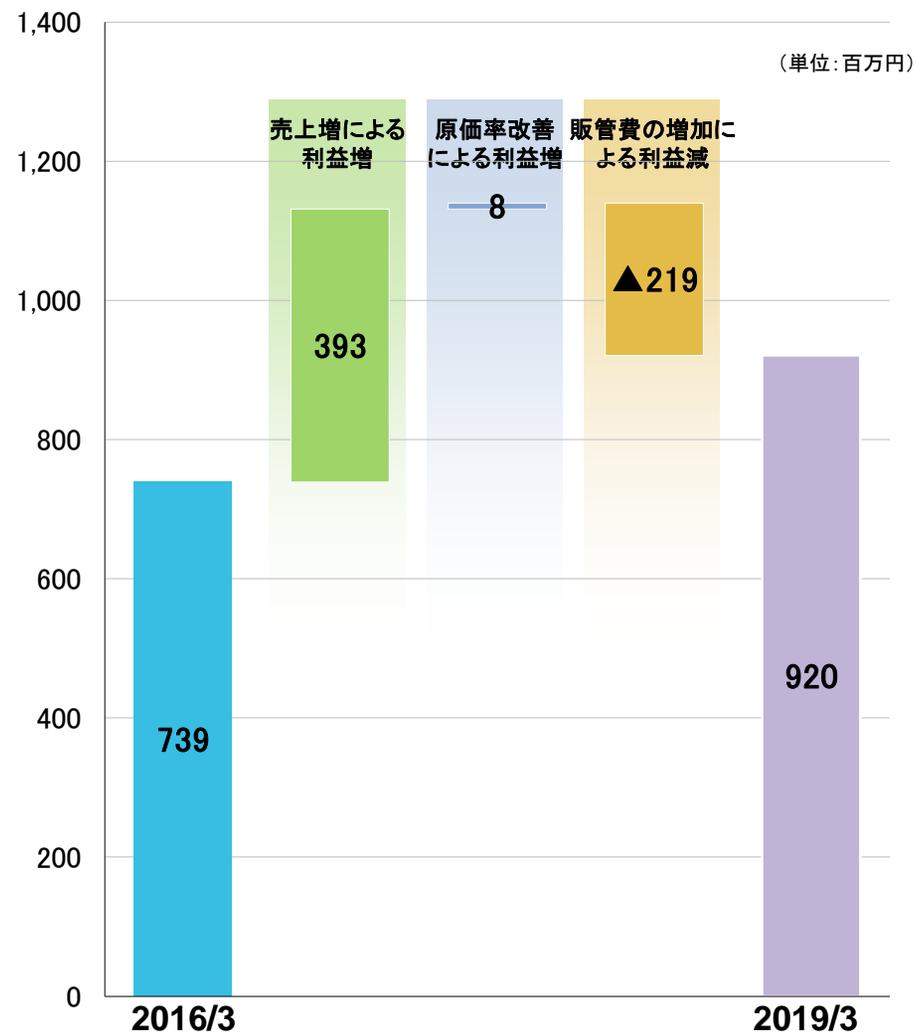
5. 中期経営計画 取組状況

売上高、利益目標



営業利益率	2016/3	2017/3	2018/3	2019/3
	4.2%	3.5%	4.2%	4.9%

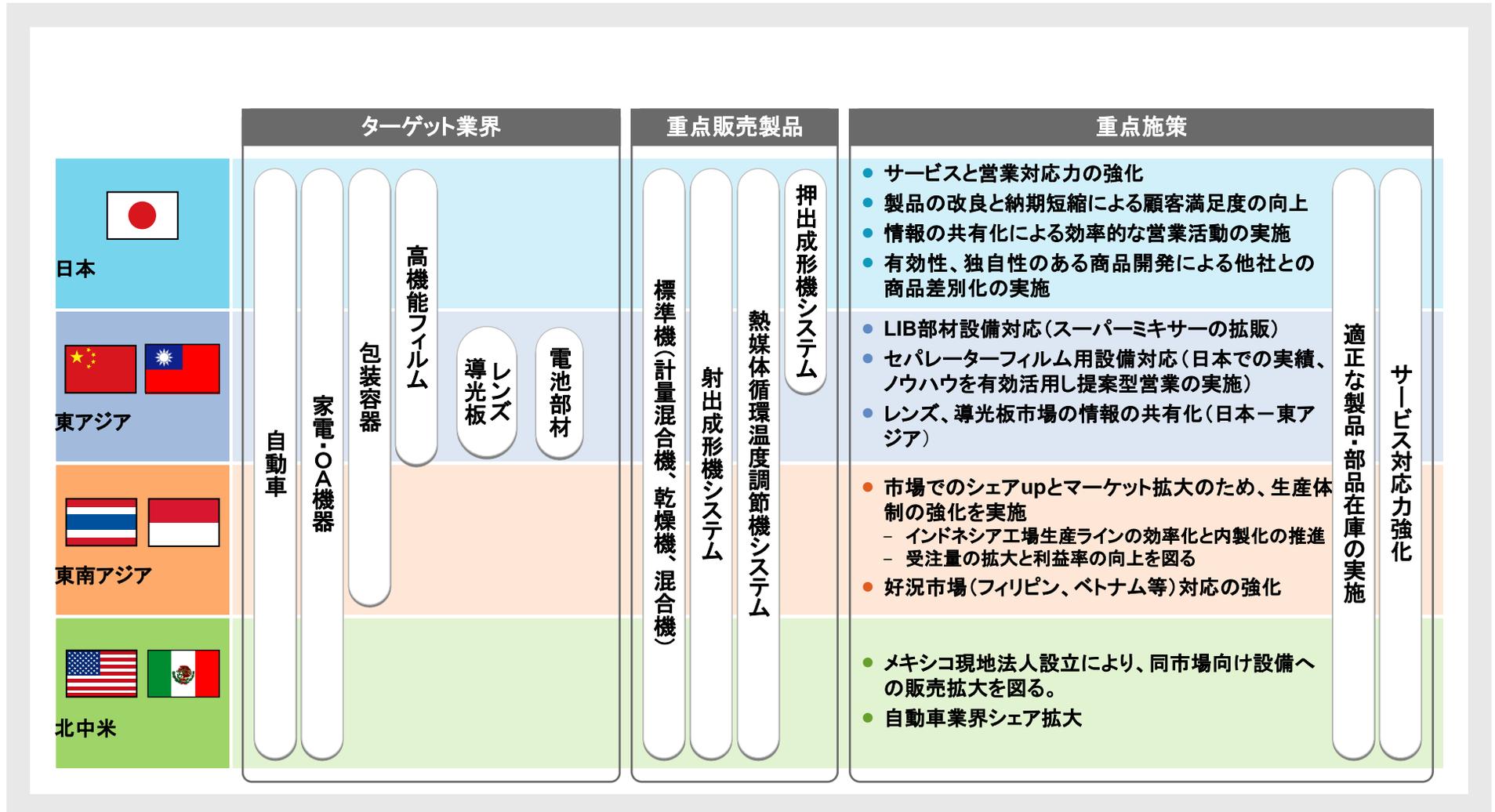
営業利益増減要因



6. 経営戦略トピックス

(1) 所在地セグメント別戦略

- 日本・東アジア・東南アジア・北中米の4拠点においてターゲット業界・重点販売製品・重点施策を策定



6. 経営戦略トピックス

(2) 生産戦略 ①中国新工場の立ち上がり

- 2015年9月に中国新工場が竣工。新たな設備投資・人員増強により生産能力を向上、技術導入による高品質化および大量生産による低コスト化の両面対応
- 家電・電子業界が低下、自動車・光学が伸長など各業態への需要動向にも対応

川田機械製造(上海)有限公司新工場(2015年)



工場全体



研究棟



金型温度調節機組立

- 新工場竣工: 2015年9月
- 面積: 土地19,230㎡
- 投資総額26億円
- 従業員279人 (2015/12現在)

新設経緯

- 海外最主力生産拠点の既存工場(1998年10月進出開始)から、新たな土地を取得し工場を建設、3工場に分散していた既存工場から移転 集約、効率化と生産拡大を図る

生産能力

- 売上ベースで60億円/年(目標値)

環境対応 製品

- 中国における近年の環境負荷低減要求に対応し更なる省エネ製品や水処理機器の開発を目指す

粉体市場 対応

- 世界の中でNo1のシェアを誇る中国のLiB部材 市場に対し、スーパーミキサーを始めとする粉体用機器の拡販を目指す

省エネ 省コスト

- 蒸気廃熱使用のコージェネレーションシステム、工業用水を循環させる設備の導入
- 発光ダイオード照明による電力消費の抑制

6. 経営戦略トピックス

(2) 生産戦略 ② グローバル生産体制

- 地産地消を原則とし、日本・東アジア・東南アジア各市場に応じた生産体制を整備
- 付加価値の高い製品については国内、コスト競争力が必要な汎用品については、海外での生産を推進し、国内と海外での分業した生産供給体制を実現



(3) 製品開発戦略 ① 市場競争力の追及

- カワタ製品開発指針チャレンジCES(セス)を継続、市場競争力ある製品開発を推進
- 国内自動車部品業界等に対応、戦略商品を投入。価格面や省エネ・省スペースなどの多様な市場ニーズに対応し価格・品質競争力向上と収益性の向上を図る



価格
C = コスト

省エネ
E = エネルギー

省スペース
S = スペース

従来機比10%以上の改善ができたものについては、
＜カワタエコマーク＞Challenge CES
マークを機器に貼付しております。

従来製品

ユーザーニーズ

戦略製品

乾燥機



- 電力価格の高騰に伴う省エネルギーニーズの拡大



DRC-60Z

- 脱湿乾燥機における省エネNo1のDRCシリーズ



DFA

- 乾燥温度を設定するだけの自動節電運転(50%~10%)オプション対応
- 省エネモードを自動で使い分け
- 遠隔にて操作、データ管理にて、操作性がアップ

計量混合機



- 輸送一体型の省スペースタイプ
- 清掃性UP
- かつ低コスト



LC-50Z

- 設置床面積70%低減(当社同等機種比)
- 部品点数を大幅に削減し、清掃時間短縮
- 用途を絞り込み、究極設計による低コストの実現

混合機



- 研究開発
- 高価な材料の混合試験
- 場所を選ばず卓上で使用



HEPD-2

- 試験・研究用に最適な、1.5Lのコンパクト卓上タイプ

粉体供給機



WS-100S

- 切り出し羽根を別駆動。繊維状材料をはじめ、さまざまな材料の高精度な計量を可能に

(3) 製品開発戦略 ② 高付加価値製品

- レンズ・液晶等製造工程においては、乾燥処理にMade in Japanの高スペックな調節能力が不可欠、弊社製品の本領が発揮される分野。売上は市場拡大とともに輸出を中心に年々拡大
- クリーン分野においては、0.1℃単位の高度な温度管理が不可欠、カワタ製品の優位性大

主な用途・最終製品

乾燥機



窒素乾燥機
DOシリーズ
Mスタビライザー



バックライト
(導光板)用
チャレンジャーⅢ

- IT・OA関連など高い乾燥レベルが必要となるラインへの提供

スマートフォンレンズ



液晶導光板



カワタ製品の優位性

窒素乾燥機 DOシリーズ Mスタビライザー

- 光学用特殊ポリエステル・ポリカーボネートに対応
- 黄変防止機内窒素濃度99%以上酸素濃度を抑制することにより材料の劣化を防止

バックライト(導光板)用チャレンジャーⅢ

新型コルゲート式ハニカム

- 基材の内部まで高機能素材ゼオライトを使用、低露天(▲40℃)の空気を得る
- 高温の空気からの除湿も容易、100℃においても吸着能力が持続

省エネ・省スペース設計

- 熱交換で回収した熱をハニカム再生に再利用

金型・温度調節機、チラー



ジャストサーモ



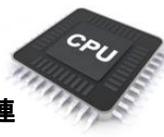
水冷チラー

- 高度な熱管理技術・水処理技術を要する分野

太陽光発電・エネルギー関連



半導体関連



ジャストサーモ

高精度

- 表示温度単位0.1℃
- 抜群の温度安定性

長寿命

- 高信頼性
- 屈指の耐久性

環境対応

- 油媒体から水媒体へ転換、最大180℃対応を可能

水冷チラー

- 精密成形に不可欠な金型の温度変化とTES成形サイクルに対応し高低間で瞬時の切換が可能

6. 経営戦略トピックス

(4) 販売戦略 ①海外販売戦略～メキシコ現地法人設立

- メキシコ合衆国における自動車製造の増加に対応、当社グループの重要顧客である日系自動車メーカー並びに各社サプライチェーンにおいても、更なる設備の増強並びに新たな設備投資を行っていくものと期待

商号：KAWATA-MACHINERY MEXICO S.A. de C.V.(予定)

所在地：メキシコ合衆国グアナフアト州

設立予定：平成28年7月

資本金：メキシコ・ペソMXN18,500,000
 (日本円換算：約1億2千万円)
 事業内容：プラスチック成形機周辺機器
 等の販売・据付工事及び
 アフターサービス業務



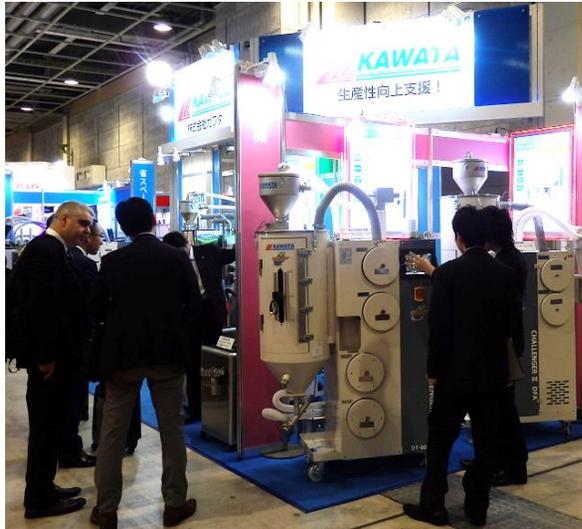
(4) 販売戦略 ② プラテックス大阪2016

- この度、3年に一度、大阪で開催されますプラテックス大阪2016に出展いたしました
- 当社では窒素乾燥機、微粉分離除去機、計量混合機、金型温度調節機等の装置を展示・ご紹介いたしました

プラテックス大阪2016概要

会場： インテックス大阪6号館Cゾーン
日時： 2016年4月20日(水)～23日(土)
主催： 日本プラスチック機械工業会、(一社)日本合成樹脂技術協会
規模： 出展社数約100社
来場者数： 約8,500名

主な出展製品



会場内では、情報交換が活発に行われ、盛況のうちに終了しました



新型窒素乾燥機DTタイプ(写真手前)

<従来の窒素乾燥機では対応できなかった樹脂に対応した新型の窒素乾燥機>



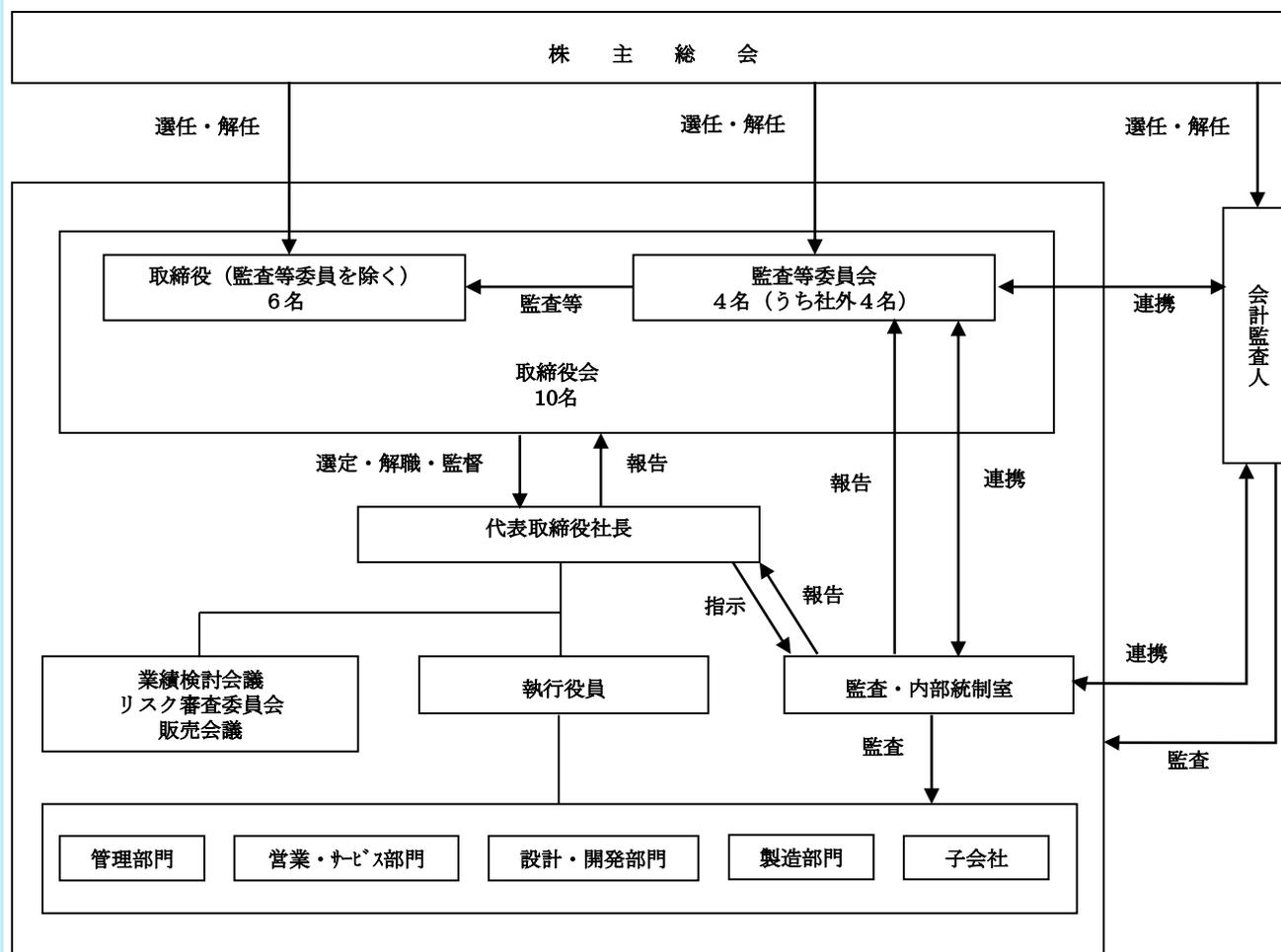
ゼノフィルター(微粉分離除去機)

<プラスチック材料の微粉・異物を遠心力で高効率除去、品質向上に寄与>

7.コーポレート・ガバナンス

- コーポレートガバナンス・コードに対する当社の基本的な考え方とその枠組み、運営に係る方針を定めた「**コーポレートガバナンス基本方針**」を2015年11月27日に制定
- 2016年3月25日取締役会で監査等委員会設置会社に移行する方針を決議

コーポレート・ガバナンス体制



2016年6月29日よりの新体制
(定時株主総会決議により決定予定)

- 取締役 (監査等員を含まない) 6名
- 監査等委員である取締役 4名
(内社外取締役4名)
- 取締役会のほか 業績検討会議、リスク審査委員会、販売会議を設置、社内取締役、執行役員等が参加
- 監査・内部統制室は、会計監査人、監査等委員会と連携をとって各部門及び子会社の内部監査及び内部統制監査を行う
- 監査結果は、代表取締役社長及び監査等委員会に報告
- 監査役会設置会社の監査権限は、原則として適法性監査に留まるが、監査等委員会の監査権限は妥当性監査にまで及ぶ
- 監査等委員会の独立性、株主総会での取締役の指名・報酬に関する意見陳述権の確保が図られている



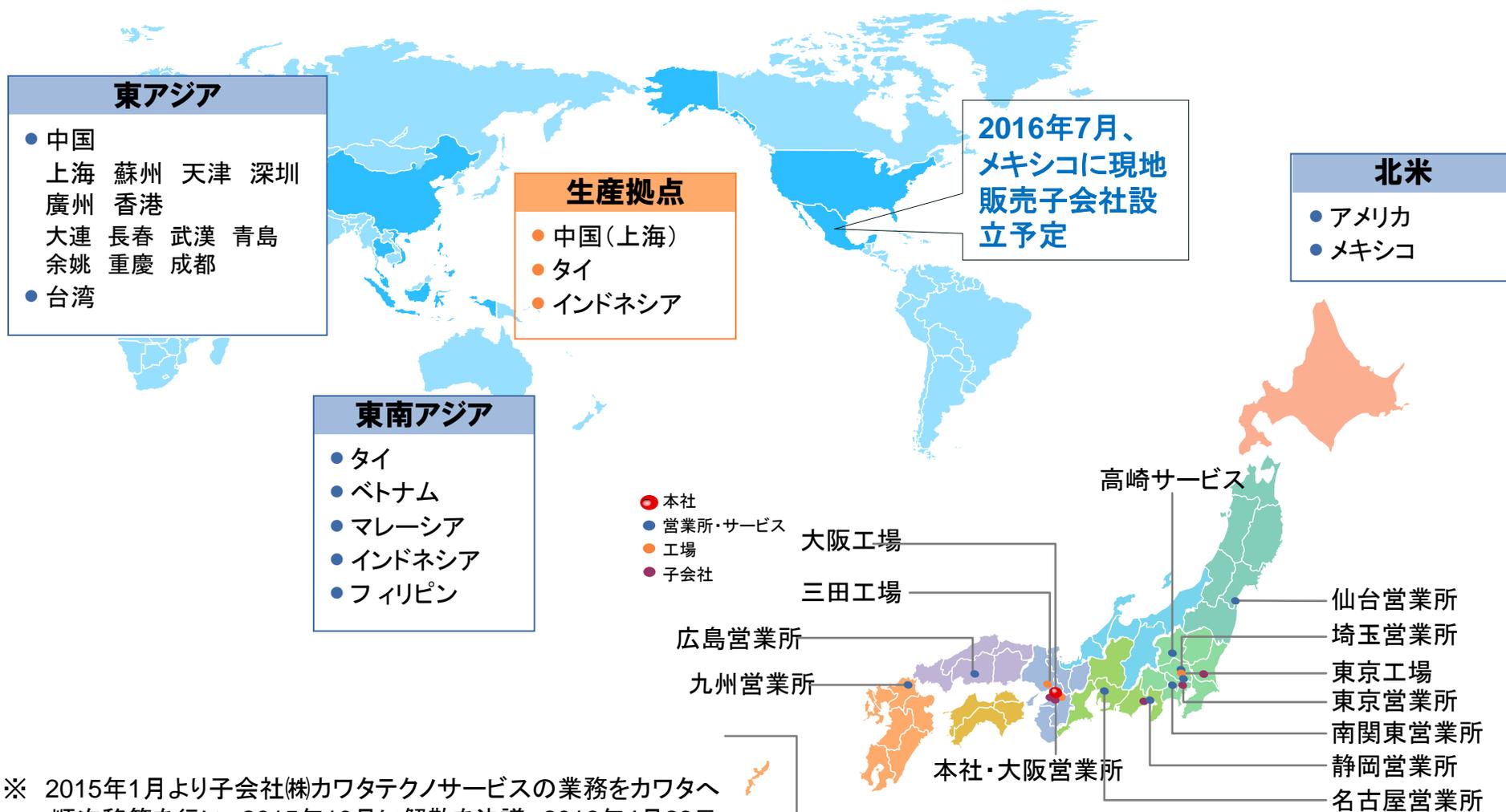
Appendix

事業ネットワーク
製品紹介
技術力の特徴
グローバル展開の状況



事業ネットワーク(国内・海外)

- 国内に11のカワタ営業所・サービス拠点／大阪・三田に生産工場を配置／国内子会社4社(東京1社、茨城1社、静岡1社、大阪1社※)
- 東アジア・東南アジア・北アメリカに販売・製造ネットワークを展開・強化

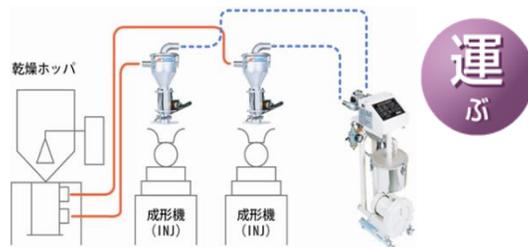


※ 2015年1月より子会社(株)カワタテクノサービスの業務をカワタへ順次移管を行い、2015年10月に解散を決議、2016年4月28日に清算終了いたしましたので一社減となっております。

製品紹介:標準機

輸送機:工場自動化の基本。限られたスペースで効率よく・無駄なく材料を輸送

1962年、オートローダーを生産、実用新案を取得



計量混合機:ペレット・顔料・添加剤・粉砕材等を定量計量した後、着色・混合する装置

1970年、米国より技術を導入、日本で初めて計量着色混合機を生産



乾燥機:樹脂ペレットは水分を含んでおり、一般的に精密成形時に不良率が高くなるため、成形前の乾燥が必要

1973年ドイツより技術を導入、日本で初めて脱湿型の乾燥機を生産



混合機:スーパーミキサーは様々な素材を短時間で均質な混合分散が可能

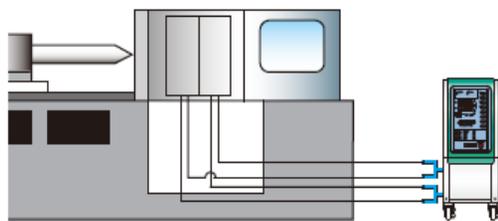
1962年より生産、世界で6,700台の販売実績



製品紹介：金型温度調節機／その他

金型温度調節機：成形品の品質にもっとも影響を与えるのは金型。高精度な金型加工と同時に金型内の温度管理を徹底。高品質の製品の製造を可能に

30年・世界 40ヶ国・販売台数 7万台を超える実績のロングセラー



各社射出成形機

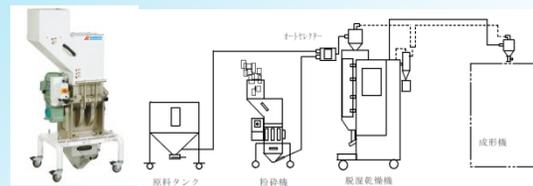


調
える

粉体関連機器：高精度粉体供給装置ファインズピット、毎時100グラム～1キログラムと少量で計量が困難な高凝集性の微粒子粉体を高精度に計量



粉砕機：射出成形加工後のランナーや成形不良品をリサイクルや減容化を目的に粉砕



部品：マグネットセパレーター（部品）：磁力の力でペレットや粉砕物内の鉄片、鉄粉等の異物を除去



製品紹介:コア技術を有機的に結合した独自システム

- プラスチック製品製造業の無人化・FA化を実現、生産性を飛躍的に向上、高度化・多様化するユーザーニーズに対応



製品紹介：②押出成形機用システム

- 徹底した生産合理化を実現する完全自動配合システム(粉体)
- 原料の受入れ装置から集中乾燥装置、集中混合装置、分配供給装置を連動自動化。成形工場におけるムラ、無理、無駄を排除



製品

① サイロ・タンクに
材料を貯蔵



貯蔵
(保存する)

② 材料を輸送・計量

運
ぶ



押出成形機用システム

計
る

乾
かす

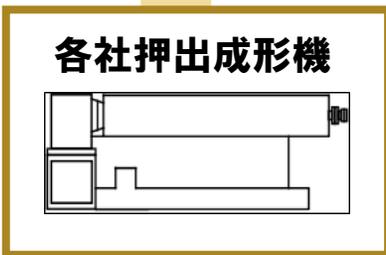
③ 材料を混合・乾燥



混
ぜる

調
える

④ 温度調節(冷却・加熱)



押出成形

製品紹介: ③乾燥システム

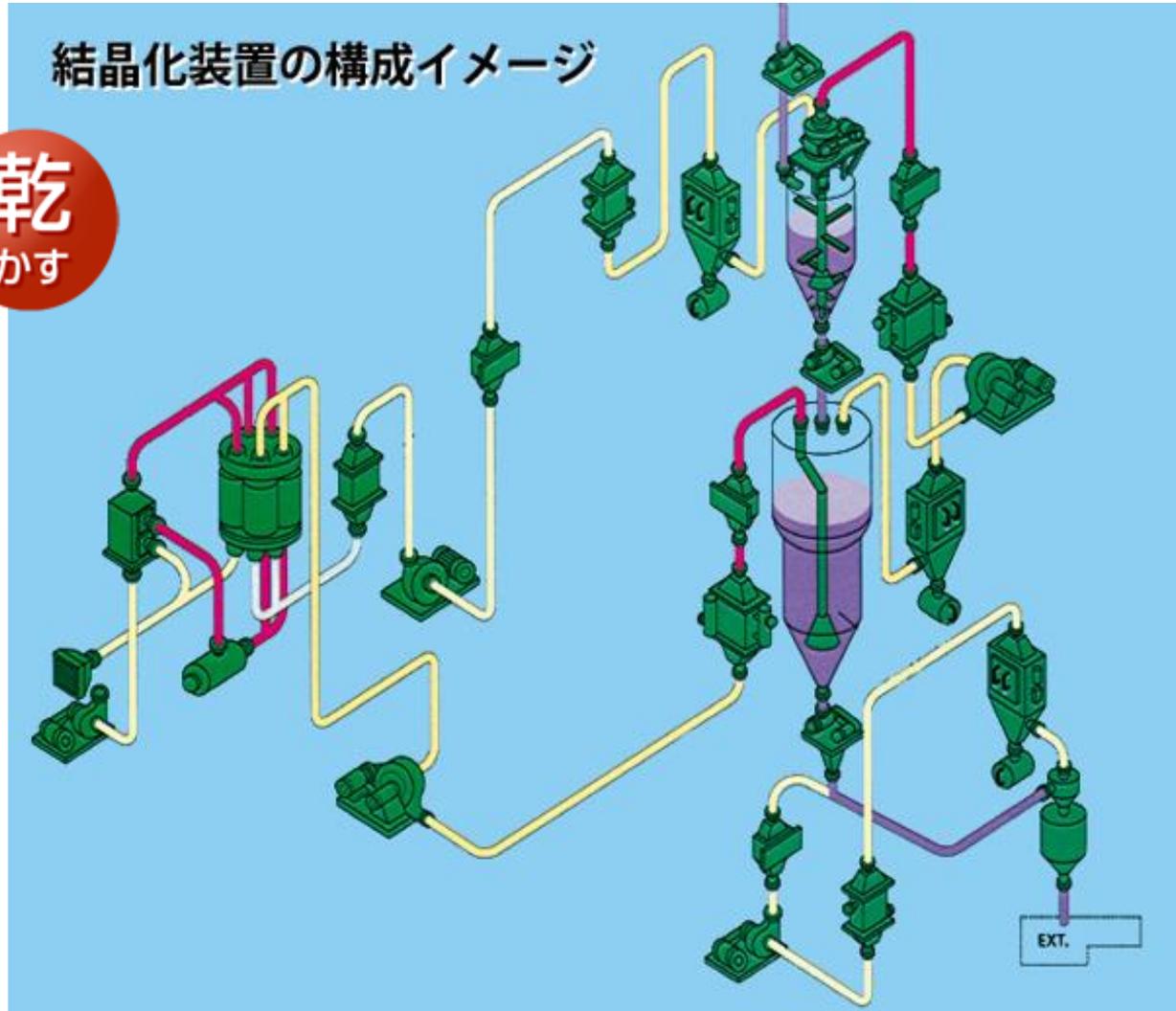
- 時代の流れにつれ樹脂乾燥装置に求められる機能も変化。多様化に対応した最適乾燥システム



(ペット) ボトル

繊維

乾
かす



技術力の特長

- 国内プラスチック製造装置合理化システムにおける技術の優位性・特許取得は主要製品におけるトップシェア確保を可能に

液晶画面関連(フィルム、シート)等

- 液晶画面の大型化、多機能化に伴い、高品質光学フィルム需要の伸長下、**クリーン技術**を駆使
- 材料の貯蔵から輸送、除粉、乾燥までトータルな成形支援システムを提供

保有特許9件/
出願中17件



レンズ関連(携帯電話関連レンズ等)

- **窒素乾燥技術**を中心に、酸化防止や安定した水分率管理が**できる乾燥システム**および高精度な金型温度調節機を提供
- 不良率の低減と高品質製品の生産に貢献

保有関連特許10件
出願中6件



ペットボトル関連(ペットボトル等)

- 豊富な乾燥ノウハウと革新的な発想に基づき、**樹脂の加水分解・酸化劣化を抑制**
- 必要最小限のエネルギーで効率的な乾燥を実現

特許出願中3件



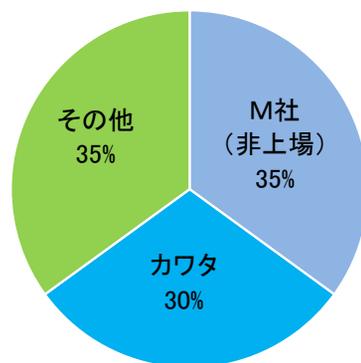
プリンター関連(カートリッジ等)

- 半世紀以上も前に生産を開始したヒート商品スーパーミキサーをはじめ、当社の**粉体貯蔵、輸送、高精度計量、高分散混合技術**はお客様の粉体関連事業をサポート

保有関連特許7件
出願中5件



当社コアビジネス国内業界シェア
(売上合計300億円)



自動車関連(ハンドル・バンパー、部品等)

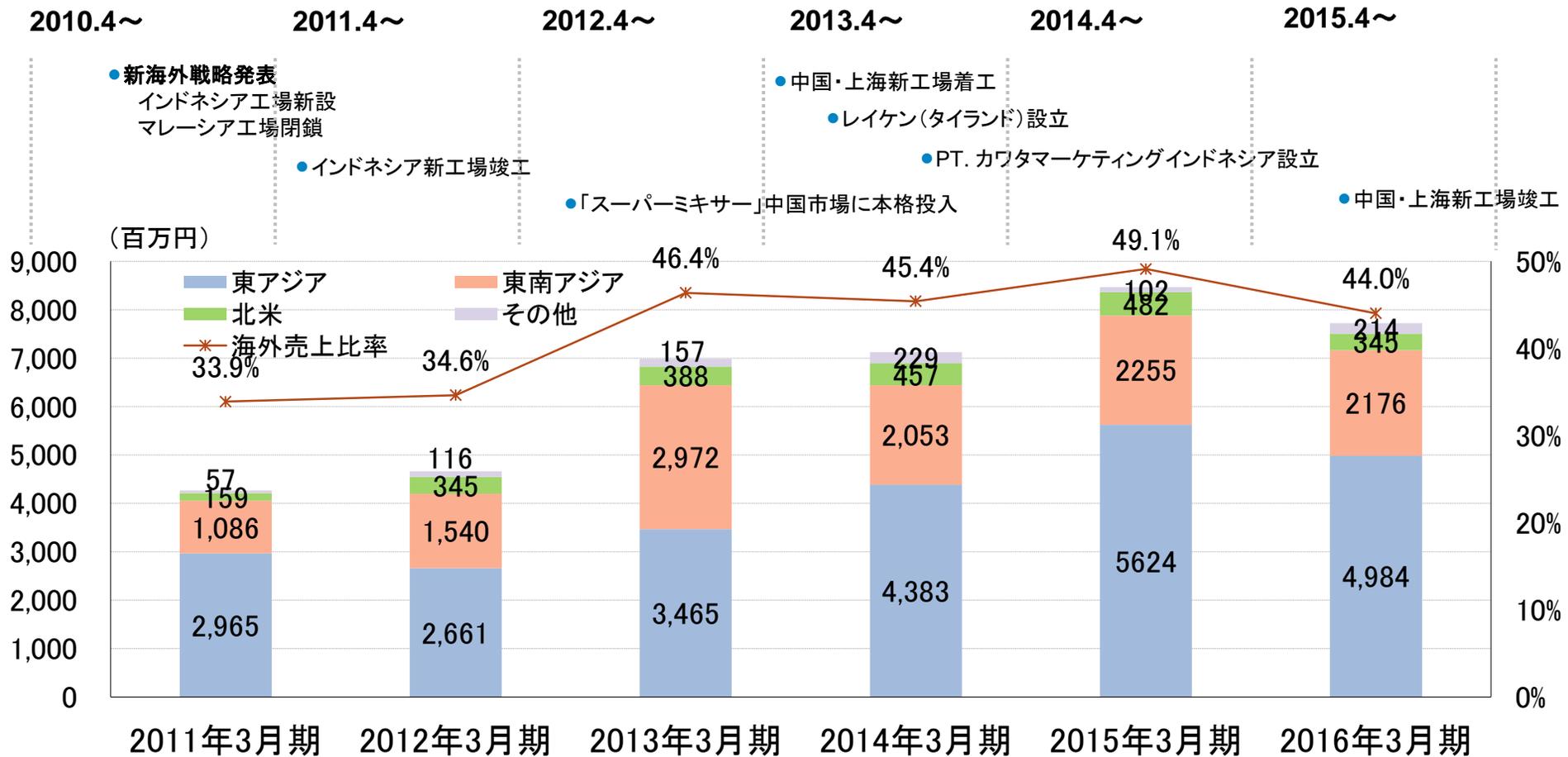
- ヒット商品の計量混合機オートカラーや脱湿乾燥機DFAなど、充実した**省エネ・省力化機器**をラインアップ
- 自動車関連成形業界の生産性の向上に貢献

保有特許9件
出願中17件



グローバル展開の状況

- 2010年3月期より海外販売が急拡大、伴に人員数も拡大。新興国の中間層増大に伴うプラスチック成形機需要に対応し、生産・製品開発・販売を東アジア・東南アジア各拠点に配置



東アジア	275	285	286	287	293	289	(人)
東南アジア	63	68	85	104	125	141	
北米	1	2	1	1	1	1	

本日はありがとうございました

粉体・粒体加工技術をベースに 新素材開発の未来を切り開く

IRに関するお問い合わせ先

株式会社カワタ 総務人事部

電話: 06-6531-8211

e-mail: ir6292@kawata.cc

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。